

# なな

4月号  
vol. 218



にしなりの街角・街並み  
「ケースデンキ 西成にオープン！」  
長橋2丁目5番

# おとなの 社会科

特集

第19講 歴史 — 女工物語・第1章

# おとなの 社会科

## 第19講 歴史 — 女工物語・第1章

昔、使った教科書をバラバラめくってみると、あの頃には気づけなかった面白さがみえてきた——そんな経験はないだろうか。学校の教科書は昔と同じではない。だから、大人になってからの学び直しも決してムダではないはず。学校に通ってた頃を思い出して、もう一度、目の前に広がる社会を学び直してみませんか。



三軒家公園内の碑。目の前の道路には紡績大橋筋線という名前が付いている

### 女工が歩いた道

春先の鶴見橋商店街を津守の方へ歩いてみると、一人の女性が疲れた様子で向こうからやって来た。着物姿で、顔立ちも雰囲気も現代の人間には見えない。その人はすれ違う瞬間にこちらを見

て立ち止まった。そして、「向こうの紡績工場で働いています。私たちがのことを書いてください」とだけ言う。再び歩き始め、その後ろ姿は人混みの中に消えていった。商店街の西端の津守には、かつて大勢の女工が働く大日本紡績(現・ユニチカ)の津守工場があっ

た。その通勤経路に沿って店が立ち並びようになったというのが、この商店街の成り立ちだという。工場近くの寄宿舎で暮らしていた女工たちは、休日になると商店街を歩いて新世界などの繁華街へ行き、日々の過酷な労働を忘れて束の間の休らぎを得た。この道は女工たちが哀しみや苦しみ、そしてわずかな喜びを背負って歩いた道なのである。

### 日本の産業革命

紡績女工との不思議な出会い

入が激増。国内の伝統的な綿紡績は大きく圧迫され、貿易赤字が増大した。財界のリーダーであった渋沢栄一はこうした状況に危機感を抱き、紡績業の振興を図るべく近代的な紡績会社の設立を計画する。

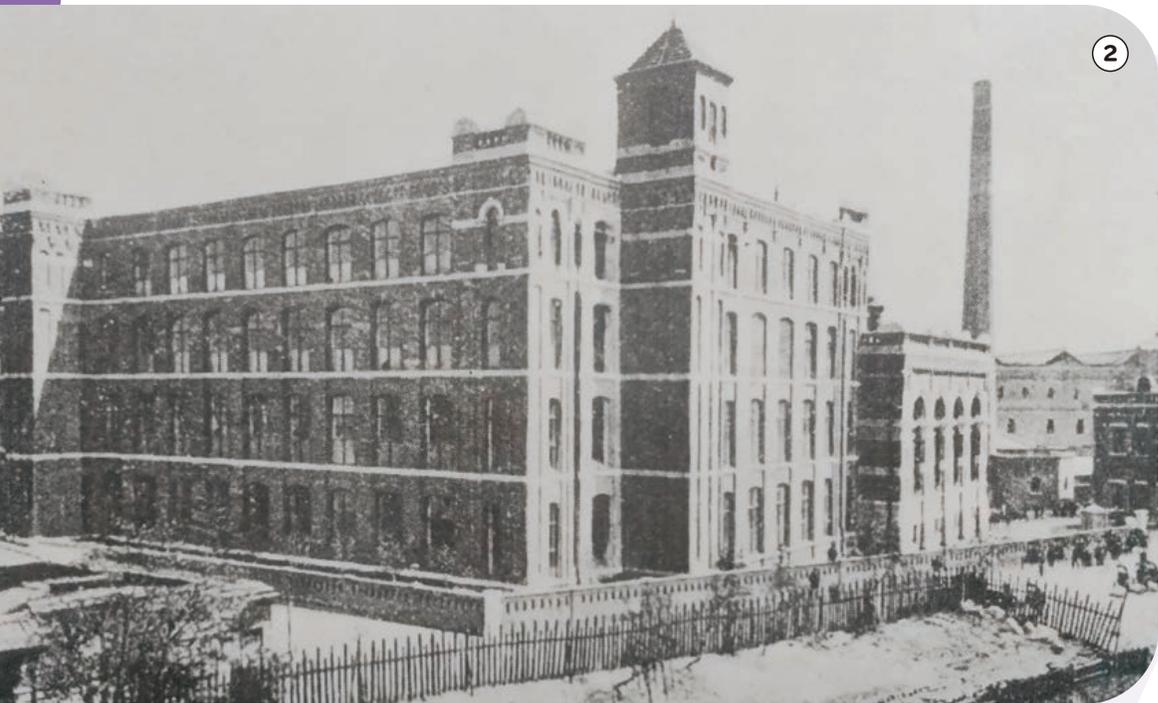
渋沢が新会社の最高幹部に指名したのが、ロンドン大学に留学中の山辺丈夫<sup>ヤマノベのくさむら</sup>という青年だった。渋沢は山辺に手紙を送り、技術指導と会社運営のため、最新の紡績技術を学ぶよう説得する。山辺は経済学を専攻していたが、渋沢の要望に応える形で機械工学の勉強を始める。やがてマンチェスターの紡績工場に技師として入社すると、ありとあらゆる最先端の紡績技術を吸収して日本に持ち帰った。

1882(明治15)年、渋沢の呼びかけで多くの財界人が株主として出資し、大阪紡績が創設された。工場の建設地には、港に近く

原料や製品の運搬に便利な西成郡三軒家村(現・大阪市大正区)を選定。イギリス製の紡績機械を備えた近代的な洋式工場を完成させ、翌年には山辺を工務支配人として操業を開始する(2)。

開業して間もなく、当時まだ珍しかったアメリカ製の電灯を導入して徹夜操業を開始。工員たちは昼夜二交代制で働き、夜には工場全体が不夜城のように照らされた。エジソンが白熱電球を発明してわずか数年という早さである。3日間限定で夜に工場を公開すると、電灯見たさに約5万人もの見学者が殺到したという。

徹夜操業による綿糸の大量生産は、大阪紡績に初年度から大きな利益をもたらした。この後、日本の紡績業は大阪紡績を本として急速に発展していくことになる。イギリスから遅れること120年、日本における産業革命の始まりであった。



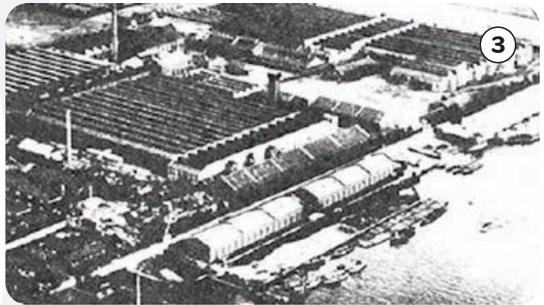
三軒家工場の全景。煉瓦造りで、当時としては未曾有の規模と最新鋭の設備を誇った。原料・製品の運搬には木津川が使われた

東洋のマンチエスター

1892(明治25)年12月20日未明、大阪紡績三軒家工場の紡績機械から火の手が上がった。風が強くと近隣の人家にまで延焼した。百人以上が犠牲となったが、その大半は近隣の木津村・九条村・難波村などから通う、まだ十代や二十代の女工たちだった。

この事例から分かるように、1890年代の時点で紡績工場における女工の割合は非常に高いものとなっていた。熟練と体力がさほど必要とされない紡績業では、必然的に低賃金の女性労働者が中心となったのである。

この頃には大阪紡績の成功によって全国的な紡績ブームが起こり、大阪では天満紡績・平野紡績・摂津紡績などの大規模な紡績会社が相次いで誕生した。紡績工場の急増は労働力不足をもたら



津守工場の全景。設備の拡張を重ね、尼紡/日紡の主力工場として稼働した

し、各社間で女工の争奪戦が激化。近隣地域からの獲得は難しくなり、四国や九州、沖縄など遠隔地での女工募集が本格化する。

日清戦争後の1897(明治30)年には、綿糸の輸出額が初めて輸入額を上回る。大阪は紡績業の成長によって工業都市として発展し、いつしか「東洋のマンチエスター」と呼ばれるようになった。

その過程で、郊外の農村だった西成郡津守村にも急速に工業化・宅地化の波が押し寄せる。

1909(明治42)年、尼崎紡績(後の大日本紡績)は日露戦争での戦勝景気で津守に新工場を建設。病院や女学校まで併設する、東洋一の大紡績工場だった(③)。最盛期には工員は4千人を超え、そのうち女工が実に8割以上を占めていた(④)。

工場の東に流れる十三間堀川という小川には、尼崎紡績が建設費を負担して橋が架けられた。これが町名や商店街の名前の由来となった鶴見橋である。この辺りは湿地帯で、都市化される前は冬に鶴が飛来する風光明媚な場所だったという(⑤)。

鶴見橋の近くには女工の寄宿舎があったが、1キロほど東にある南海電車の萩之茶屋駅を使って工場に通う女工もいた。その通勤経路に少しずつ商店が増え、



津守工場で働く女工たち。日中は仕事をし、朝晩に工場内の学校で勉強した

どの重工業が大きく躍進し、紡績各社の新工場建設も相次いだ。この大戦景気は4年にわたって続くことになる。

故郷を遠く離れて

1918(大正7)年に第一次世界大戦が終結すると、欧米の製品が市場に復活し、日本製品の輸出は激減。さらに関東大震災や

金融恐慌が続き、長い不況に入る。サトウキビの栽培が主な産業だった沖縄では、砂糖の相場が暴落し、深刻な貧困と食糧不足に見舞われた。農村部では米や芋もなく、有毒のソテツを食べて命を落とす者が急増する。また、幼児や娘の身売りも横行した。当時の沖縄を襲った大不況は「ソテツ地獄」と呼ばれる。

こうした状況で、沖縄から本土への出稼ぎが急増する。行き先は労働力需要の高い大阪が圧倒的に多く、1920(大正9)年からの10年間で1万7千人、20年間で4万人以上の沖縄県民が海を渡って大阪府内に流入。女性の就職先は紡績工場が8割にも達した。1927(昭和2)年の調査では、大阪紡績三軒家工場で162名、大日本紡績津守工場では147名の沖縄女工が働いていた。

朝鮮から大阪への出稼ぎが急

激に増え始めたのもこの頃である。1910(明治43)年に日本は韓国を併合するが、その後起こった三一独立運動の影響で、朝鮮人の内地への渡航は厳しく制限された。しかし国内の労働力不足を補うため、政府は1922(大正11)年から渡航を自由化。10年後には大阪市の朝鮮人の居住人口は約12万人、20年後には40万人を超えた。

朝鮮の女性も、仕事は沖縄の女性と同じく紡績工が圧倒的に多かった。長期の不況下でも、紡績各社は国際競争力を高めるため工場の増設を続け、労働力は常に不足していた。しかし、この頃には日本の農村部でも若い女性の働き手は底を尽き、資本家たちはより安価な労働力を求めて朝鮮での女工獲得に乗り出した。

大阪市内の紡績会社と比較して特に積極的だったのが岸和田

出向いて女工の募集を行っていた。この流れは近隣の紡績会社にも広がり、泉州一带は朝鮮人工女の多い地域となった。

こうして紡績王国大阪は海の内向こうの人々までも呑み込んで膨張を続けた。大阪市は無秩序な都市化に対処するため、1925(大正14)年に隣接する44町村を一気に編入。人口と面積は東京市を抜き、アジア最大、世界でも屈指の巨大都市「大大阪」が誕生する。しかし、工業出荷額で全国一を誇り、「煙の都」とも呼ばれた大阪の繁栄を象徴する無数の煙突の下には、何千何万にも及ぶ女工たちの過酷な労働があった。

その後、1933(昭和8)年に日本は綿織物の輸出額でイギリスを抜き、世界一の紡績大国となる。大阪紡績が操業を始めてから、ちょうど50年目のことだった。

文責・福井龍磨



鶴見橋の跡地。十三間堀川は埋め立てられ、その上に阪神高速が建設された

5

3

4

更生の道のりで見つけた新しい「表現」のカタチを  
よりそいネットおおさかが紹介します。

# あなたの センスに あっぱれ!

第3回  
生誕1年!  
公式キャラクターの  
紹介

11月よりスタートし、2カ月に1度みなさまへお届けしている「あなたのセンスにあっぱれ!」。次なる活動の紹介の

前に、今回は活動を支える仲間を紹介します。

みなさま、扇子の形をしたタイトルロゴの中央にいるキャラクターにお気づきでしょうか。カエルをモチーフにしたキャラクターの名前は「ほっこりん」。昨年3月、よりそいネットおおさか主催のフォーラムで誕生した、法人の公式キャラクターです。活動を支える広告塔として、地域のみなさまに親しまれ、愛される存在となることを目指して生まれました。

なぜカエルが選ばれたのでしょうか? それは「かえる」という言葉に込められた想いが背景にあります。私たちは刑務所や少年院などの矯正施設で支援対象者と出会います。犯罪行為に至ってしまった彼ら・彼女らも、いずれは地域に“帰る”日が来ます。そして地域に戻る準備を進める中で、私たちは本人と一緒に、被害者のこと、過去の生活、自身の課題などに



いて振り返ることに由来しています。

「ほっこりん」の誕生には、地域の方々の協力が欠かせませんでした。デザインは当初4つの案があり、それぞれのデザインに異なる意味が込められていました。最終的に、地域の方162名の投票により選ばれたデザインが、現在のほっこりん。丸みを帯びた優しいフォルムと、愛らしく微笑む表情が特徴で、左胸には傷ついた心が描かれています。この心の傷

は、さまざまな人生の苦悩を抱えながらも、未来に向けて力強く進む姿が表現されています。また、「ほっこりん」という名前も、地域の方からの公募によって決まりました。デザインから名前まで、地域の方に支えられて生まれたキャラクターです。

そんなほっこりんも、今年の3月1日に1歳の誕生日を迎えました。この1年で名前を覚えていただけようになり、

ほっこりんも大喜び。地域のみなさまとの距離も少しずつ近づいているように感じます。これからも、よりそいネットおおさかの顔として、地域によりそい、愛されるキャラクターとして成長していけるよう頑張っていきます。さらに、ほっこりんが生まれた「よりそいフォーラム」が今年も3月に開催されました。今年は犯罪予防の視点からボードゲーム作りにも挑戦! この取り組みには大阪市立デザイン研究所の学生も参加し、ゲームのデザインから広報用のチラシ作成、SNS運営まで幅広くサポートいただきました。よりそいネット



**一般社団法人よりそいネットおおさか**  
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4-15  
大阪府社会福祉会館2階  
TEL/FAX: 06-6711-0130  
HP: <https://www.yoriso-osaka.jp>

よりそいネットおおさかは、刑務所等の矯正施設を退所した人たちの支援や、支援者との関係づくりに取り組み、ネットワーク型の福祉構築を目指した活動を行っています。

公式キャラクターを作ってくれたイラストレーター  
**mijisan**

MIJI\_PANDA

トおおさかは、今年度もさまざまな挑戦をしていきたいと思っています。地域のアーティストたちだけでなく、私たちの挑戦を支えるデザイナーたちの活躍にも注目ください。

[磯拓哉] 冬も終わりに差し掛かり少し暖かくなってきたかな?と思った矢先にまた寒波体調管理が難しい。3月ってこんなに寒かったかな?とまだダウンを直せていません笑

[沖田一志] 数年前からRPAを使ってLINEとFaceBookの投稿を自動化。SNSの仕様変更やOS更新で頻繁に動かなくなる。今回は12日間も止まることに気付かなかった。自動化の意味がないかも。

[笹川勝正] 先日子どもがどうしても見たいとのこととで瓶コーラの専用自販機を探しました。無事大阪のとある場所で発見して乾杯! 探してみてください!

[住友宣夫] 3月は仕事が忙しい時期です。疲れがたまると、効率が悪くなるので、仕事が多いときほど休むことが大事だと実感しています。



# おかんのため息

- おかん はあ…。アルファかベータか知らんけど、あんた、防災の備えはしてるか？
- ◆ 息子 ン？ ちょっと何言ってるのかわかんない…。
- この前、防災訓練に参加してきてん。
- ◆ そういうことかいな。
- そこで保存食のアルファ米を食べてな、いろんな味があってけっこうおいしい。
- ◆ どんなのがあるの？
- 五日ご飯はおいしかったな。ピラフとかチキンライスもあったわ。
- ◆ なんか保存食のイメージとちゃうな。ところで、おかん、「アルファ化米」やで。
- え？「アルパカ」みたいやな。いや、そんなええねん。干からびた米粒みたいやねんけど、パックの中にお湯を注いで15~20分置いておくことができやが。
- ◆ ほお。じゃあ、「ローリングストック」って知ってるか。
- ン？「ローリングストーンズ」みたいやな？
- ◆ なんや、今日はダジャレが多いな。最近はずわざ保存食ってせんでも、普段食べてるものをある程度保存しておいて、期限が近づいてきたら食べてしまっして、そして補充しちゃうっていう考え方に変わってるらしい。
- ストックがクルクル回つとるわけやな。
- ◆ そうそう。あと、飴やらチョコやら甘いものもええらしいで。
- それは大丈夫や、言われんでもたくさん置いとる (キリッ)

- ◆ そうやったな (笑)
- 避難の予行演習もしたで。避難場所の門をいったん閉じて、鍵を開けるところから始めんねん。
- ◆ ほお。
- 門を開けてもすぐには中に入れへん。役を持つてる地域の人が校舎を全部確認して安全が確保できてから。けども、一斉に入るんじゃなくて、名簿を作るために受付を置いて、「並んでください」って交通整理すんねん。
- ◆ それは本格的やなあ。
- わたしも役持つてるから年1回でもやっておくと安心やわ。区役所の人も来てて、能登の現場の報告もあった。「自分が役やってるからって、他人のことを先にしなくていい。まず自分や家族を優先して動いてください」って話してたの、よう覚えてるわ。
- ◆ 東北のときも「いっしょに助けな」って助けに行っちゃって、結局津波に呑み込まれた人もいたしね。
- けど、やっぱり近くに気になる人があって、ときどき会いに行くねんけどな。
- ◆ なんて？
- 心配やから (笑)
- ◆ ボランティアや、それ。地域のおばちゃんやん。
- で、つい震災の話になって「何か備えてますか」って訊いたら、「いや、もうそうならね、そうならいいの」って言いはんねん。質素な生活してはるから、やっぱりそこまで備える余裕がないみたい。
- ◆ 一種の諦めなんかな。知らんけど…。
- 「いろんな人と助け合なあかんで」という思いが一方にあって、実際一人でおる人は「ええねん、なったらなつたときのことや」って観念してる、そのギャップがなあ。…なんか寂しいなあ。
- ◆ けど、自分の身を守るのことは大事なことやで。防災の方法はどんどん変わっていくから、新しい情報はちゃんと入れとこうね。
- あんた、たまには頼もしいこと言うなあ。



浪速区民センターで行われたGCC Kidsの発表会。子どもたちは、大きな舞台上で毎日練習した成果をお父さんお母さんにお披露目しました。幕が下りるギリギリまで笑顔で手を振る姿はとてとても輝いていて、会場の人々で感動のひとときを過ごしました。



大阪市の住民参加型地域組織「地域活動協議会」の活動に橋を架けよう「近ツ橋【ちかつきょう】」

# 近ツ橋

ポッチャ大会に参加!



長橋地活協では毎週木曜日の健康体操後にポッチャを実施している。ポッチャとは、最初にコート内の玉となる白球を投げ入れ、マイボールを投げたり蹴ったりして、できるだけ多くの玉の近くに残す競技である本誌203号参照。

2月18日、日々の練習の成果を発揮する「第2回ジャガピーパーポッチャ大会」が西成区民センターで開催された。

午前中の予選を勝ち上げれば午後からの本選へ出場できるのだが、昨年は1勝もできなかったため一抹の不安がよぎる。



試合が始まると良い意味で予感を裏切られ、なんと3戦全勝と軽々本選出場を決めてしまった。勝者の余裕なのだろうか、本選へ向けてエネルギーを補充するため、みなさん笑顔で食事へ向かう。

さあ、いざ本選。前半戦を見てみると「優勝もあるのでは」と期待が膨らむ。さて、注目の結果は！なんと！——全敗である。ガックリ…どうやら昼食を食べて眠くなったようだ。「昔の阪神か」といふツツコミとともに、来年のリベンジを決意し会場を後にした。



[谷口円]家ではメガネなんです、鼻あての跡がついて取れなくなってきたので、鼻あてのないメガネを買ってみました。こめかみ辺りで支える形。走ると吹っ飛びそうですが、意外と快適です。



[田岡秀朋]万博で「火星の石」と「大屋根リング」を見ときたい。月の石・太陽の塔と比べる声もあるが、地球と月は38万km、火星は0.5~4億km。リングは一周2025m。バグったスケール感を満喫したい。



[福井龍磨]中国の埙(シュン)という民族楽器が気になっている。卵型の可愛い土笛で、狩猟の時に使う骨笛が起源だという。竹筒に穴を開けて作った竹埙もあり、これも魅力的な形。笛の世界は奥が深い。



[西田吉志]2025年3月7日、にしなり隣保館の南側で行われていた大規模な建設工事が終了した。私たちの地域に大型家電量販店「ケースデンキ」がこの4月にいよいよオープンする。

# 葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



## 「桜吹雪の葉っぱ」の巻

あの、初めまして。迷いながらあいさつする。えっと、初めまして。臆病ながらあいさつする。その、初めまして。不安ながらあいさつする。そんな私に気づいたあなた。おもわず息を呑む私。

こんにちは。  
迷わずあいさつができた。  
こんにちは。  
堂々とあいさつができた。  
こんにちは。  
安心してあいさつができた。  
そんな私を笑顔でみるあなた。嬉しくて葉が色づいた私。

赤井まゆみ

### 桜吹雪のこと

原産地は南アフリカ。多肉植物で寄せ植えの素材として人気。花言葉は「君だけを愛する」

# 皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



(寺本良弘)

第2次世界大戦後にできた国連は、大戦の悲惨さから戦争の起こらない社会をめざしてきたはずだ。しかし今や、米・露・中といった常任理事国の思惑によって崩壊の危機にある。トランプ米大統領の「自国は自国で守れ」というメッセージによって欧州各国は軍拡の態勢を整えようとしている。

日本も日米安保の見直しが行われれば、軍拡に進む可能性がある。憲法改正によって戦争ができる国になると、軍拡だけではなく「徴兵制度」が復活して、国民生活に大きな変化をもたらしかねないことを危惧する。

これまでの常識が世界規模で覆されつつある。経済最優先ではなく何が人類に幸せをもたらすのかしっかりと見極め、進むべき道を決める外交政策が求められている。戦争反対！

# い湯かげん

## 「令和の米騒動」から地域を見直す

高騰した米の価格が下がらない。投機目的で買い占めている連中もあるという噂も立ち、予想外の広がりを見せている。今年2月に入って政府はようやく備蓄米21万トンを出し、かつ輸入量を年間2万トン増やすという。

昨夏から顕著になった米価の高騰を「令和の米騒動」と呼ぶ声もあったが、教科書に載っているあの有名な1918(大正7)年の「米騒動」とちがうのは、政府による米価統制の存在である。政府の介入がこの混乱の要因であることは誰もが気づいていることだろう。

八十余年前の戦争に因る深刻な米不足に対処するために、政府は農家から米を買い上げて価格を決定し、

それを等しく国民に分配する体制を敷いた。この食糧管理法(食管法)による配給制度は、戦争が終わってからもしばらくの間はそれなりに役割を果たしたが、昭和30年代になって生産性が飛躍的に増大し米が余りだすと、農家から高値で米を買い消費者に安く売るといふ役回りに転じた。

当然の帰結として食管会計は毎年大幅赤字。その対策として政府が次に打った手が1971(昭和46)年の減反制度だった。政府が作付面積を決めて生産量を調節したおかげで廃止に至るまでの四十余年、米の価格は安定したものの日本の米作はすっかり衰退してしまった。もはや米増産に意欲を燃やす農家はほとんどいないと言われるほどだ。

自由経済とは言っても政府の統制は必要だ。ただ、その舵取りは政府の「さじ加減」とは似て非なる「いい加減」でなくてはならない。減反政策は結果的に不必要な中間市場を膨らませてコメ市場を化けさせてしまった。

消費者の食生活もこの七十年で大きく変わってしまった。昭和30年代には一人の1年間のコメの消費量は約140kgであったのに、現在は約50kg。これに応じなければならなかった農家の苦境は想像に難くない。失政を批判しているだけでは足りない。日本社会全体の問題だ。私たちが生きている社会はいつも、以前から決まっていることを時宜に応じ変えられずに事態に窮するという構図から抜け出せない。何を変える必要があるのだろうか。

ひとつ思いつくのは、「地域」というユニットのイメージだ。私たちは当然のように、自分たちが住んでいる地域を都市/地方あるいは住居/工業/商業などと分けているが、これがどうもうまくない気がする。高度成長期以降、効率性を追求した空

間が作られ人びとの生活水準はとも良くなったが、最適解を集めた効率性重視の発想のままでは、社会全体が縮小している現在の局面には対応できない。

私たちが生きている地域は暮らし(教育や介護を含む)の場であり、モノづくりの場であり、商売の場でもある。効率性や最適解もそこそこに製造や商売が折り重なっている暮らしの空間。競合他社のヘルパーたちが現場で出会って言葉を交わしたため息をもらす。勝手連で音楽バンドを編成し利用者を楽しませている。西成という下町にはそんな貌があったじゃないか。あら、米の話からずいぶん離れてしまった。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[山村裕太] そろそろ花粉症というこの世の地獄の季節がやってくる。毎年今年は症状が出ないから治ったかな?と思うと喉と目のかゆみが襲ってくる。期間限定でいいので、目と鼻と喉を着脱式にしたい。



[若松司] 金沢在住の親戚に会いに行った。もう少し足を伸ばして内灘町(うちなだまち)に。戦後に拓いた干拓地は地震による液化化現象で被害甚大。地区内を通ると平衡感覚を奪われる心地がする。



地域の縁を心でつなぐ

# 心の時間

寂しい」と応える婦人。

これらの映像を見て「真珠の誕生」の話を思い出しました。真珠はアコヤ貝の殻を少しだけこじあげ、その中に真珠核を入れて作ります。異物を入れられ痛みを感じた貝は、その痛みを和らげるために、自身の分泌物で真珠核を包み込み、やがて数年か経ったあとに誕生するのが真珠です。真珠はいわば母貝の大きな痛みの結晶なのです。

先の震災が人々の心に悲しみの核をねじ込んだのでしょうか。でも、亡き人への愛情と共に、あるいは悲しみを縁としてお互いに支え合って生きていけば、優しく柔らかく輝く「心の真珠」が生まれる、きっとそんな日が来るはずですよ。

松向寺 通法

今年の一月は阪神・淡路大震災の発生から三十年という節目のせい、テレビ各局で震災関連の映像が数多く流されたように感じました。「がんばろう神戸」って言うけど、家も家族も全てを失ったわしは何をがんばったらいいか、教えてくれない。今も震災直後と変わらない。ずっと悲しくて、ずっと

写真は人生の一部が映ったもの。



## ウツリ の1枚

『3人だけでお出かけをした日』

次女と妻と僕、初めて3人だけで行った「ひらかたパーク」。長女と三女はお留守番。なぜ3人だけ？ 家族との普段の生活ではいつも誰かといっしょの真ん中の子が、ママパパを独り占めにできる時間、僕たちにとっては次女だけをみる時間を作りたかったから。これからも素敵な時間を重ねていきたいね。(編集長 西田吉志)

ここは思い出や自慢の1枚を少しご紹介するコーナーです。

## ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 4月号 (vol.218)  
発行日: 2025年 4月 1日 (創刊日: 2007年 1月 1日)  
発行: 株式会社ナイス  
住所: 大阪市西成区長橋 3-6-33  
電話: 06-6563-1150  
E-mail: info@nice.ne.jp  
url: https://www.nice.ne.jp/

編集長: 西田吉志  
編集: 磯拓哉、沖田一志、笹川勝正、住友宣夫、田岡秀朋、福井龍磨、山村裕太、若松司 (あいうえお順)  
イラスト: hidarimaki、西井亜花梨  
デザイン: 谷口円

(株)ナイス  
ホームページ

